

京都市市民活動総合センター（以下、しみセン）が「ひとまち交流館 京都」に開設して、10年たちました。この間、2011年のNPO法改正に伴う京都市への所轄庁の変更や、認定NPO法人への移行促進のための「NPO法人への寄付金の条例指定制度」など、市民活動支援は制度面においてかなり整備が進んでいます。しかし新規NPO法人認証への動きが鈍化傾向を示しているのに対し、NPO法人の解散数が7945件（2013年12月全国）に達するなど、NPOをめぐる社会環境も大きく変化してきています。現在NPO法人であるかどうかではなく、NPOはどんな価値を生み出したか、社会におけるNPOの存在価値や役割が改めて問われる時代になったといえます。NPO中間支援組織であり、かつ公設民営であるしみセンの役割も、NPOが市民を受け入れる力を身につけ、市民が個々の関心に応じたNPOと出会う場を創設し、市民とNPOが互いに育ちあう環境を仲介したり、コーディネーターしたりする事業を重視する必要性が出てきました。私たちには、今後も団体のさらなる組織運営の充実や活動内容の質の向上に対し、きめ細かな支援提示が求められています。

しみセンのもう一つの役割は、市民がNPO・市民活動への参加を通して、より多くの社会参加への意欲を促すことにあります。京都には何かを始めたい、しかしどこに行っても何をすればよいのかわからないと参加の入り口で戸惑っている潜在的関心層が多くいます。しみセンはこうした潜在的関心層への情報集積・発信の場であり、支援の場であるという役割を担いながら、現実としてしみセンの存在があまり知られていないことが、最大の課題といえます。

こうした課題をきちんと受け止め、平成25年度は、以下の4つの事業領域を重点的に実施しました。

1. 「しみセンを誰もが知っているよ！」時代へ向け新規情報ツールが稼働開始しました

しみセン開設10周年に当たる25年度は、これまでのしみセンの活動やノウハウ・成果を、外に向かって打ち出す時期と捉えました。情報提供事業の目的は、情報がほしい人に必要な情報を届けることにありますが、今年度はしみセンを知らない人に、必要と思われる情報を届け、「しみセンを誰もが知っているよ！」時代にすることを目指しました。潜在的関心層に市民活動への参加を促すために、アソシエイトによるhotpotの企画・制作をはじめ、定期メルマガ発行やしみセンリーフレットの改訂、SNSを活用した新たな情報ツールの開拓（しみセンブログの開設やfacebookの稼働）など多様な媒体を使った情報発信に注力しました。

その結果、センターへの来館者数（来訪者）はここ3年減少傾向にありますが、情報提供数（ホームページアクセス数、SNS活用数、メルマガ購読数等）は増加しており、潜在的関心層、活動層を問わず、必要とする方へ必要な情報を届けることができました。次年度も引き続き、ほしい人に必要な情報を、どうやって届けるか、さらなる潜在的関心層の掘り起こしや、活動層へのニーズに沿った支援事業につないでいきたいと考えます。

2. ニーズに対応して、すべての事業が有機的に動きました。

25年度の特筆すべき成果としては、日常の相談対応の結果をきちんと分析し、各事業の企画に活用

できたことがあげられます。どの時期にどんな種類の相談や講座が必要されているのかを把握し、ニーズに対応した講座やセミナー、専門家相談会を、きめ細かく実施することができました。

特に 24 年度に開始した認証・認定系事業は 2 年目に入り、それぞれの団体の抱える問題点・課題解決に向けて、多様なテーマで講座や相談を展開し、質・量ともに認証・認定業務は定着しています。例えば認定移行セミナーでは、100 人規模の「活動計算書の書き方セミナー」を実施したほか、団体活動を広報支援するワークセミナー「活動パワーアップ塾（6 回連続）」を開講し、その成果発表会の場として「市縁堂（9 月 28 日）」を開催しました。なおプレゼン出場団体に対し助成の公募を行い、審査会の結果、2 団体に助成を行いました。認定専門家相談会では専門家の力を借りて、定例的に会計や労務、登記等の専門家相談会のほか、寄付や広報ツールとしてのデザインなどのテーマ別専門家相談会を多様に開催しました。

しかし NPO 法改正に伴う相談や講座への参加者もそろそろピークに達し、次年度以降は落ち込む傾向もうかがえます。いかに質の高い支援事業（相談や講座、育成等）を提供できるかが、これからのしみセンに問われています。

3. 多様な関係性をコーディネートしました。

24 年度から取り組んでいる育成事業（活動団体へのエンパワー・インキュベーション）を 25 年度も重点的に取り組んだ結果、NPO や市民が交流や連携を通じて互いに育ちあう多様なコーディネートを生み出すことができました。統計的数値からみるとしみセンへの来訪者や一般相談件数はここ数年減少傾向にありますが、専門的な相談やコーディネート成果については前年比を上回る成果が出ています（末尾の参考事例参照：「平成 25 年度に取組んだ主なコーディネート」）。

しかし一件のコーディネートが成立するまでには、日常の相談事業や育成事業（講座等）後の丁寧なフォローなど、多大な手間と時間が必要となってきます。今後もしみセン内部の人材育成や資金配分に配慮しながら、市民→NPO、NPO⇄NPO、地域⇄NPO、NPO⇄他セクターなどをつなぎ、人的資源・ノウハウ・資金が循環し、団体自身の「自治力」を高める支援サポートを更に深化させていきたいと考えています。

4. 一部稼働し始めたものの、継続課題となった「市民活動支援基金」や「市民活動白書」

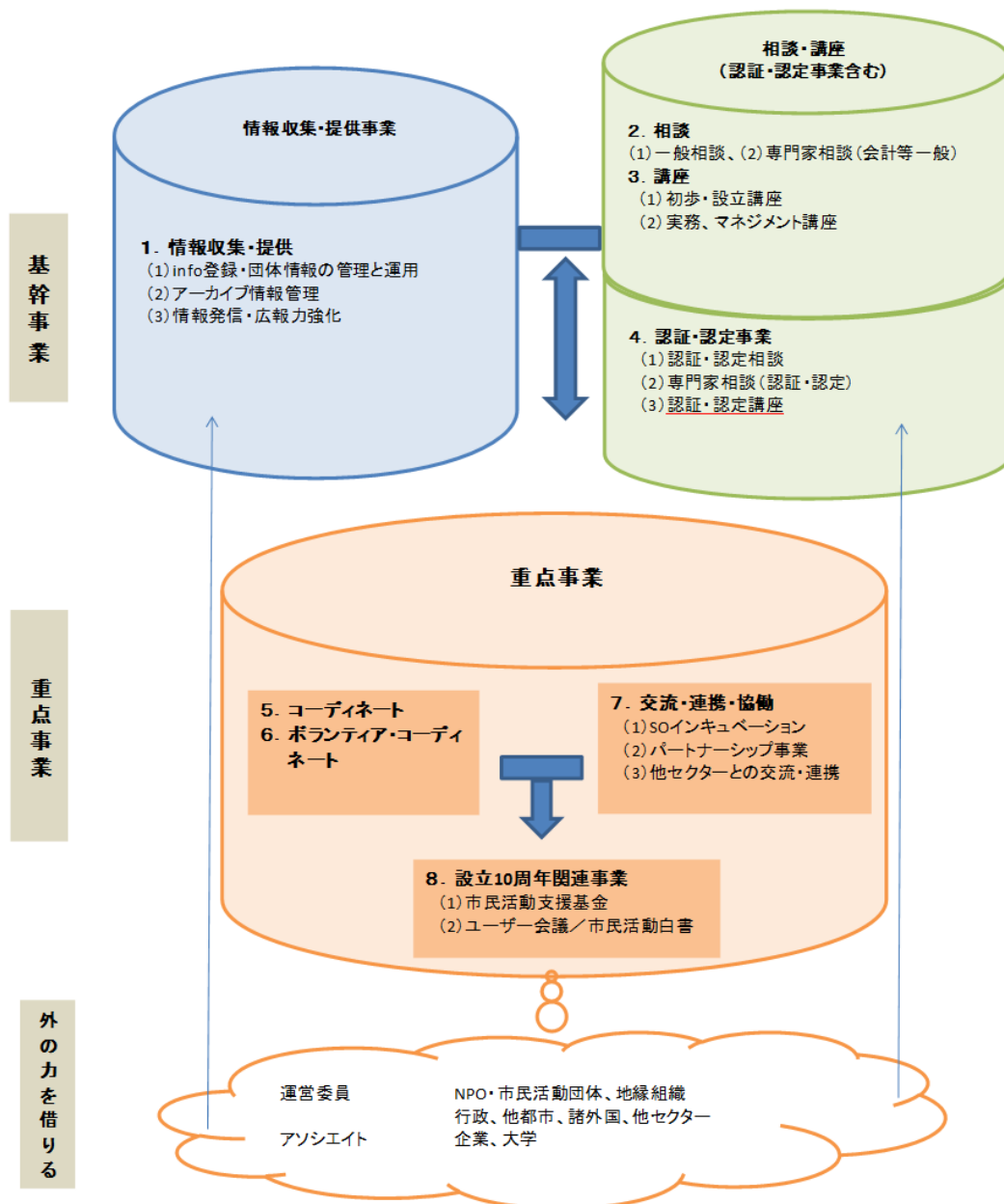
(1)「市民活動支援基金」を創設。稼働し始めました！

第 2 期の指定管理申請で約束した「市民活動支援基金」ですが、今年度「市民の課題解決のための新たな支え合い」の仕組みとして創設することができました。この基金はセンターの指定管理料の外にフリーハンドである財源を確保するに留まらず、センターが市民の運動性の支援や活動団体の速やかな事業化を支援するという点からも重要な事業です。基金の使い道は①将来の公益的な展開をめざし、まだ社会で注目されていないが、将来の地域や社会にとって解決する団体や、②多くの市民に知ってもらい支援してもらう必要がある課題に取り組んでいる団体（京都市内から事業を始める団体等）を支援することを目的として掲げました。基本的なフレームは、きょうと NPO センター及び京都地域創造基金が基金の管理運用を担い、しみセンは団体をサポートする（しみセンとしては独自事業）という枠組みです。現在、寄付を集める仕組みを描き、寄付獲得の実現にむけて動き出しました。

(2) これからの「市民活動」とは何かを、描き切れていません。

当初企画していた「市民活動白書～社会や京都市における市民活動のこれまで」については、2003年から2013年までの10年間の足跡をたどり、hotpot57号特別記念号にて発行することができました。なお、これから10年間に目指す市民活動の在り方については、26年度も継続して、市民や活動団体の方々とともに幅広い市民や当事者とともに考える参加型討論会を企画し、市民活動の「これまで」をきちんと検証し、「これから」を問い直したいと思います。

設立10周年！ ♪ 誰もが「しみセンを知っているよ」時代へ ♪



【参考事例】平成 25 年度に取組んだ主なコーディネート

1. 【NPO×NPO】……持っているものをシェアするマッチング

■Kidz Lab.×NPO法人エンゼルネット

ものづくりを通して、子どもたちの創造力や集中力を育てるとともに、地域の子育て支援にも取り組んでいる Kidz Lab.さんから、事業拠点を拡大していきたいとのご相談。一方、伏見区で 10 年前から幼保一体保育に取り組んでこられた NPO 法人エンゼルネットさんで、幼稚園～就学児童さんへの放課後プログラムを発展させていきたいとの思いをお伺いしていたところだったので、この両団体をマッチング。

2014 年 4 月より、エンゼルネットの拠点で、Kidz Lab.の芸術教室が月 1 回開催されるようになりました。拠点を貸し借りするだけでなく、相互の事業連携に発展したマッチングとなりました。

■労働者協同組合（ワーカーズコープ）×NPO法人（2 団体）

働く人々・市民がみんなで出資し 民主的に経営し、責任を分かちあって人と地域に役立つ仕事をおこす協同組合である、ワーカーズコープ。労働共同組合として、仕事につながりづらい方や貧困を抱えている青少年に対し、就労の場を提供していきたいと思いつつも、課題を持っている方へのネットワークを持っていないことが悩みでした。そこで、連携できる NPO があれば…とのご相談。貧困を抱えている青少年へのつながりということで、子どもの貧困対策に力をいれている NPO 法人山科醍醐こどものひろばとマッチング。また、就労につながりづらいという側面から、薬物依存症者支援に取り組む NPO 法人京都 DARC をマッチング。

両団体とも中間就労の場を求めておられ、まずはお互いの取り組みを知るところから始め、長期視点で、就労支援に向けた関係性をスタートさせることになりました。これからどのような連携が生まれるか、楽しみなコーディネートとなりました。

2. 【NPO×企業】【その他セクター×NPO】

……ボランティア体験等を希望するセクターに、多様なプログラムをコーディネート！

■オムロン株式会社×NPO（6 団体）



会社の創業日に社員のボランティア活動を実践しているオムロン株式会社。平成 25 年は 80 周年という節目を迎えたこともあり、記念式典が開催され、世界各地の事業所から役員・社員の方が京都に集まることに。式典の終了後、具体的に手を動かし、活動の成果が出るボランティア体験をしたいので、協力してくれる NPO をコーディネートして欲しい、というご相談がありました。

半数近くが外国人／90 分で達成感があること／ホテルでできるプログラム、などの困難な条件の中、オムロン担当者と NPO 側の間に入り、きめ細かなコーディネートを行いました。当日は NPO 6 団体がプログラムを提供し、120 名の社員がボランティア体験に参加しました。

■ザ・リッツカールトン京都×NPO (3 団体)

京都でのグランドオープンを抑えた1月に、リッツカールトンの設立準備室より当センターに電話が。リッツカールトンではCSRの行動理念である「コミュニティフットプリント」(参加、貢献、インスパイア)というものがあり、京都でも社員が地域貢献に積極的に関わっていくのを奨励していく方針です。そこで、オープンを抑え、職員の一体感・連帯感を高めるためのボランティアプログラムをしたい、とのご相談でした。本番まで2週間という非常にタイトなコーディネートでしたが、当日はNPO3団体がボランティアプログラムを提供し、約70名の社員がボランティア体験に参加しました。



■東本願寺研修部×NPO法人ビオトープネットワーク

夏休みに2泊3日で行う「中高生奉仕団」という研修合宿において、1日をボランティア体験の日にしたとのご相談。公共交通機関にて1時間程度で移動できる圏内で、自然体験+学びの要素があるもの、また40名全員で作業ができるものがよいとのことで、希望条件に最適と思われる里山整備活動を行っているNPO法人ビオトープネットワークをマッチング。

当日までに下見を兼ねたボランティアとして、研修部の職員の方が9名活動を行い、合宿当日は子ども35名大人12名が里山整備のボランティア活動に参加しました。この「中高生奉仕団」は3月にも行われ、3月の体験活動では、ネイチャーゲームのご提案と団体の情報提供を行いました。

3. 【NPO×専門家】……専門家のチカラをNPOのチカラに

■天若湖アートプロジェクト×映像制作会社スタッフ

日吉ダムに沈んだ村に夏の2日間だけ明かりを灯す「天若湖アートプロジェクト」。2014年に10周年を迎えるにあたり、映像記録を残し、ドキュメンタリーフィルムとして活用したいとのこと。ある程度しっかりした機材やスキルが必要となるのだが、協力してくれる人はいないか?というご相談をうけました。当初はNPO団体へのマッチングを希望されていましたが、若干の予算も確保できるとのことで、NPOの活動にも理解が深い映像制作会社の方をマッチング。1月にはドキュメンタリーフィルムも出来上がり、次年度に向けての最高の広報ツールが完成しました。

協力者側も、この機に撮った映像をケーブルTVに持ち込む計画をしており、双方にとって実りの多いコーディネートとなりました。

■NPO法人暮らしデザイン研究所

×スクールソーシャルワーカー

身の回りの環境を整えることで、発達障がいや広汎性機能障害の方の「暮らしやすさ」に取り組む暮らしデザイン研究所。今年度



実施を予定している発達障害住環境支援者養成講座において、学校の立場や現状をお話していただける、学校関係者の方はいないか？とのご相談があり、子ども支援の NPO にも関わってらっしゃるスクールソーシャルワーカーの方をおつなぎしました。

4. 【NPO×特定のスキルを持つ個人】……“好き”なことでボランティア

■NPO 法人希少難病患者支援事務局×顧客管理システム構築のスキルを持つ個人

以前より検討していた顧客管理システム「セールスフォース」導入にあたって、構築のノウハウを持った方に、システム構築の考え方などを教えてもらえないか？というご相談。

そこで「セールスフォース」のシステムを構築したことのある市民の方をマッチング。構築の前に整理しておくべきことや、検討しておくべきことなどを中心に、研修をしてもらいました。

5. 【地域×NPO】NPOの専門性で地域を元気に！

■えにち幼稚園×一般社団法人PENS

25 年度で廃園になるえにち幼稚園。廃園前に保護者主体のバザーを予定しており、在園児・卒園児が集まるので、子どもたちが楽しめるプログラムを計画。そこで、協力してくれる NPO はないか？とのご相談がありました。材料費や交通費などの経費に多くを割けないなどの条件があり、マッチングはやや難航。しかし、この場を新人ボランティア育成と、幼稚園教諭を目指す人の研修（実践経験）の場として活用してもらえないかと考え、そのような人材を豊富に集めている一般社団法人 PENS さんをマッチングしました。保護者も在園児も卒園児も、そして NPO にとっても価値のあるマッチングができました。